

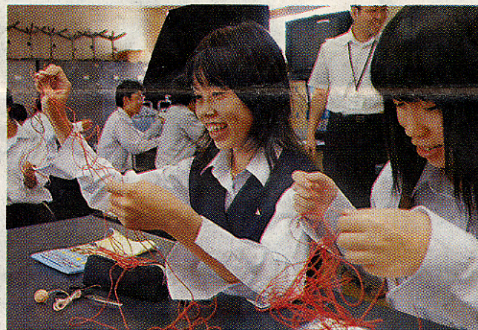
先端科学楽しく 院生ら出前授業

松江北高でNPO

理系離れが叫ばれるなか、高校生に科学の楽しさを伝えようと、東京大学大学院生が中心となって結成したNPO法人サイエンスステーション（事務局・東京都）が22日、松江市奥谷町の県立松江北高校で出前授業をした。講師の大学院生らは最先端の科学を図や画像を使いながら説明し、生徒は真剣な表情で聴いていた。

サイエンスステーションは04年の結成後、これまで全国各地で12回、出前授業をしている。

この日は理系コースの2年生約170人が5グループに分かれ、それぞれ地震学や物理学を専攻する大学院生ら5人の話



講師の指導を受けながら電波を受信する回路を作る生徒ら—松江北高校で

を聴いた。

東北大大学院で天文学

を研究する米田瑞生さん(23)は「電波って何

？」というテーマで、電波の仕組みを説明した。

「電波を聞く」実験では、生徒に導線にダイオードとイヤホンをつないだ回路を作らせ、電化製品から出る電波を回路で音に変換し、電波を音として聞けるかどうか挑戦した。なかなか音が拾えずに苦心する生徒もいたが、イヤホンから「プー」という音が聞こえると、生徒は笑顔を見せた。

講義を受けた松尾亮佑さん(17)は「レベルの高い内容で満足です」と話した。